

## MOTOR SPORT REPORT

JRC／全日本ラリー選手権

奴田原・佐藤組、鎌田・市野組が最高峰の JN6 クラスで躍進  
JN2 クラスでは猪股寿洋がランキング首位を快走！



第7戦 ラリー北海道ではナイトステージのSS1 を制した鎌田・市野組が JN6 クラスで3位入賞！



### ■概要／Outline

国内外のレースシーンで活躍する PIAA はラリー競技においても名門として定着。WRC（世界ラリー選手権）で数多くのワークスチームをサポートするほか、国内最高峰シリーズの JRC（全日本ラリー選手権）においても 1982 年に横浜ゴムと ADVAN-PIAA Rally Team を結成して以来、アドバンのワークスドライバーとともに数々のタイトルを獲得している。

その勢いは今もなお健在で 2017 年の JRC でも各クラスで PIAA ユーザーが活躍中だ。まず最高峰の

JN6 クラスに目を向けると、ADVAN-PIAA Rally Team で三菱ランサーエボリューションXを駆る奴田原・佐藤組が第2戦のターマックイベント、久万高原ラリーでシーズン初優勝を獲得したほか、第6戦のグラベルイベント、ラリー洞爺では Syms Rally Team で VAB 型のスバル WRX を駆る鎌田・市野組が今季初優勝を獲得したことは記憶に新しい。

残念ながら第7戦のグラベルイベント、ラリー北海道では奴田原・佐藤組が SS2 でコースアウトを喫し、リタイアに終わるほか、ラリーをリードしていた鎌田・市野組もパンクでタイムロスを喫し、3位に終わるものの、表彰台の一角を獲得した。

一方、JN2 クラスに目を向けると K's Racing Team でトヨタ 86 を駆る猪股寿洋が開幕戦のスノーイベント、ラリー・オブ・孺恋を制したほか、ラリー北海道でも2位入賞を果たし、ポイント争いで首位を快走。このように2017年のJRCにおいても各クラスでPIAAユーザーが躍進中で、シーズン終盤戦においてもトップ争いを左右することだろう。



JN2 クラス 2位の WAKOS☆PIAA☆BRIG☆YH86

## ■レポート/Report

それまでの全8戦から全9戦に開催ラウンドが拡大されたことで、例年以上の過酷なバトルが展開されている2017年のJRCには、日本全国からトップドライバーが集結。その国内最高峰のシリーズで最も注目を集めているドライバーがADVAN-PIAA Rally Teamの奴田原文雄・佐藤忠宜組だといえるだろう。

奴田原はこれまでに10度に渡って最高峰クラスでチャンピオンに輝いているJRCのトップドライバーで、2017年もPIAAのライティングシステムおよびシリコンゴム撥水ワイパーを装着した三菱ランサーエボリューションXでJN6クラスにエントリー。愛媛県久万高原町を舞台にした第2戦の久万高原ラリーで今季初優勝を獲得するなど素晴らしい走りを見せている。

これと同時に注目を集めている逸材が、Syms Rally TeamよりJN6クラスに参戦している鎌田卓麻・市野諒組にほかならない。鎌田は1990年代後半から海外ラリーで活躍してきたドライバーで、2005年～2008年にはPWRC（プロダクションカー世界ラリー選手権）で活躍。2013年にはスバルBRZでJRCに復帰しており、2014年にJN5クラスでチャンピオンを獲得した。2015年からはJN5時代から使用するPIAAのライティングシステムおよびシリコンゴム撥水ワイパーを装着したVAB型のスバルWRXでJN6クラスに参戦。2017年は北海道洞爺湖町を舞台にした第6戦のラリー洞爺で今季初優勝を獲得するなどトップクラスでも活躍中だ。

このようにPIAAのサポートドライバーはJRCの最高峰クラスで活躍しているが、奴田原・佐藤組、鎌田・市野組の両組は9月15日～17日、北海道帯広市を舞台にしたラリー北海道でも素晴らしい走りを披露していた。

まず、15日の夕刻、ナイトステージとして開催されたSS1でスバルWRXを駆る鎌田・市野組がベストタイム。さらに三菱ランサーエボリューション10を駆る奴田原・佐藤組が2番手タイムをマークするなど、PIAAのライティングシステムを搭載した両ドライバーが1-2フィニッシュを達成した。



PIAA ALL LED 仕様の ADVAN-PIAA ランサー



PIAA HID ランプの SYMS DL TEIN WRX STI

しかし、翌 16 日のオープニングステージ、SS2 で奴田原・佐藤組がコースアウトを喫し、その日の走行を断念するほか、SS1 に続いて SS2 でベストタイムをマークした首位の鎌田・市野組も SS3 でパンクを喫し、8 番手まで後退。その後は計 4 本の SS でベストタイムをマークするなど猛追を披露するものの、トップから 2 分 39 秒遅れの 3 番手でレグ 1 をフィニッシュすることとなった。

翌 17 日のレグ 2 でも鎌田・市野組は 3 本の SS でベストタイムを叩き出すものの、ポジションアップを果たせずにフィニッシュした。それでも脱落者が続出したサバイバルラリーで 3 位入賞を果たし、表彰台の一角を獲得した。



JN6 3 位の SYMS DL TEIN WRX STI



この結果、ポイント争いで奴田原・佐藤組がランキング 3 位につけるほか、鎌田・市野組も同 4 位につけるなど PIAA サポートチームの両雄が JN6 クラスで上位争いを展開。それだけに第 8 戦のラリーハイランドマスターズ、第 9 戦の新城ラリーのターマック 2 連戦でも奴田原、鎌田の PIAA ユーザーが上位争いを左右するに違いない。

一方、JN2 クラスでは K's Racing Team の猪股寿洋が躍進。群馬県嬭恋村を舞台にした開幕戦のラリー・オブ・嬭恋を制するなど、PIAA のライティングシステムおよびシリコンゴム撥水ワイパーを装着したトヨタ 86 で幸先の良いスタートを切っている。その後も猪俣は第 6 戦のラリー洞爺で 2 位につけるほか、第 7 戦のラリー北海道で 2 位入賞を果たすなどコンスタントにポイントを獲得。ポイント争いでランキング首位に立ち、JN2 クラスをリードしているだけに猪俣がタイトル争いの主役になりそうだ。



JN2 2位のWAKOS☆PIAA☆BRIG☆YH86



PIAA HID フォグランプを装着

なお、JN3 クラスに目をむければ、昨年に引き続きIムホ-ツの南野・サント組が PIAA の LED ライティングシステムを装着したマツダ・デミオを武器にラリー北海道で2位入賞。これと同時にチームメイトの唐釜・新井組が4位につけるなどここでも PIAA ユーザーが活躍した。



JN3 2位のIムホ-ツ YH SHAF デミオ1



新型デミオに PIAA LED ライトバーを装着



JN3 4位入賞のIムホ-ツ YH SHAF デミオ2



昨年のラリー北海道より PIAA LED ライトバーを装着

そのほか、APRC（アジアパシフィックラリー選手権）の第5戦では、HASEPRO RACING の長谷川・河西組が終始クレバーな走りを披露。PIAA のライティングシステムを装着した三菱ランサーエボリューションXで過酷なサバイバルラリーを走り抜き、総合12位で完走を果たすなど、PIAA ユーザーが各クラスで活躍した。



APRC 総合 12 位完走の HASEPRO RACING



PIAA HID ランプポッドを装着

## ■ユーザーの声/User's Voice

奴田原文雄/Fumio Nutahara

ADVAN-PIAA Rally Team/ドライバー

マシン：三菱ランサーエボリューションX

「ラリー北海道では LED のランプポッドを装着したんですけど、従来のH I D仕様のランプポッドより明るく感じました。それに従来のH I D仕様よりバルブ自体の照射角度が広く設計されていたので、今回の LED ライティングシステムは照射範囲が広いので全体的に明るくなっていました。色は白色系ですが、見辛くなくて自然な仕上がりです。ナイトステージでも安心して走れました」



山田淳一/Junichi Yamada

ADVAN-PIAA Rally Team/チーフメカニック

マシン：三菱ランサーエボリューションX

「開幕戦の嬌恋でランエボ Xに LED のランプポッドを装着しましたが、ランエボ Xに LED のランプポッドを装着したのはラリー北海道が初めてです。やはり従来のH I Dより光の広がる範囲を広く設計してもらいましたのでドライバーは見やすいと思います。それにH I Dは電力消費が LED に比べてすごいのでアイドリングが落ちるんですけど、LED は電力消費が少ないのでランプのスイッチをオンにしてもアイドリングは変わらない。エンジンに与える影響は少ないはずなので、多くのランプを装着する場合には LED のライティングシステムは有効ですね」



猪股寿洋／Toshihiro Inomata  
K's Racing Team／ドライバー  
マシン：トヨタ 86

「我々が参戦しているJN2クラスは“RPN”という改造範囲の狭い車両規定に分類され、一般的なラリーカーのようなボンネットの上にランプポッドの取り付けができないことから、上記規定を満たす追加ランプとして、バンパー内蔵用のPIAA製HIDフォグランプを新たに装着しました。

純正フォグランプの位置に収まるので視界の妨げにもならない上、見た目もスッキリしていました。照射角度が広く、手前の両サイドを照らしてくれるため、特にコーナーのイン側の視認性が向上しました。既存の前照灯が照らしてくれない所を照らしてくれるので、暗くなってからでも安心してアクセルを踏んで行くことができました。



バルブ自体も見やすい色味で、既存の前照灯とも調和が取れているため、目が疲れにくかったです。また製品が軽量であるため、競技中はずっと装着したままで、86特有の回答性の良さを損ねることはまったくありませんでした。

このライティングシステムはナイトステージであるスーパースペシャルステージ“sammy SATSUNAI”で効果を発揮しました。」

## ■Photo Gallery



セレモニアルスタート前の全選手の集合写真



JN6 の表彰式



JN3 表彰式



JN2 表彰式



APRC に参戦の Mpart Sport の三菱ミラージュ R5 仕様に PIAA ライティングシステムが装着されている



ADVAN-PIAA ランサー





ADVAN-PIAA ランサーのセレモニアルスタート



ギャラリーの声援に答える奴田原選手、佐藤選手



サービスで整備する SYMS DL TEIN WRX STI



多くのマシンの走行後はグラベル路面も悪化



ウォータースプラッシュ



土煙を巻き上げて疾走



LED ライトバーを装着しナイトステージを走行するIAA杯 76 YH SHAF デミオ1





IAスポーツ YH SHAF デミオ2



PIAA LED ライトバー



2位獲得でJN2 ランキングトップのWAKOS☆PIAA☆BRIG☆YH86



WAKOS☆PIAA☆BRIG☆YH86



サービスで整備するハセプロランサー



ナイトステージを走るハセプロランサー

